

1 【出題の意図と対策】

文学的文章（小説）の読解です。ここでは伊吹有喜『カ
ンパニー』を題材に、登場人物たちの心の動きや場面の表現の特
徴を読み取ります。小説を読むときには、できるだけ登場人物の
立場に立って、場面の状況やその心情に寄り添いながら読むよう
にしましょう。そのうえで、それぞれの設問について、何が問わ
れているのか、選択肢などに明確な根拠があるかどうかを確認し
ながら解答していきましょう。

【解答】

- ① ㉙ えいよ ㉚ きわ（め）
- ② イ
- ③ 例 エ
- ④ 広い知識と技術を身につける（13字）
- ⑤ 例 ウ 仕事に夢中になれる由衣には王者の才能があるのだから自信をもってほしい（34字）
- ⑥ ウ

【解説】

② ポイント《人物の心情の理由を正しく理解できるかどうか》
傍線②のあとの高野の発言に着目しましょう。「公演後に、あ
つさり他の人に俺を引き継いで」、「瀬川は自分が見込んだ相手
にはとことん食い下がっていくタイプだと思っただから、てつき
り俺は見限られたのだと」とあります。見込んだ相手には熱心
であるはずの由衣が公演後に高野の担当をあつさりやめたこと
から、高野は、自分には由衣を引きつけるような「王者の才能」
がないのだろうかと考えたことがわかります。

③ ポイント《人物の心情を正しく理解できるかどうか》
「急いでくれよ」という高野に対し、由衣は「いつかまた一緒
に仕事をしたい」が、今はできないという気持ちでいます。傍
線⑥の少し前の由衣の心情と発言に着目すると、由衣は、高野
の今の担当者のような「全部持ってる」トレーナーになりたい
と考えていて、それには、「この人の力を支える広い知識と技術」
を持つことが必要だと感じていることがわかります。

④ ポイント《ことばの意味を正しく理解できるかどうか》
「熱を帯びる」には、「体温が高くなる」という意味の他に、「興
奮して、情熱的な様子になる」という意味もあります。ここでは、
「王者の才能」について由衣に語っている「高野の声」の様子を
示していることから考えましょう。

⑤ ポイント《人物の心情を正しくまとめられるかどうか》
高野の考える「王者の才能」の意味と、「王者の才能は、瀬川
のなかにもある」と由衣に向けて言う理由を押さえましょう。
高野は、「夢中になれること、好きになれること。それこそが王
者の才能」であり、この才能がなければ、たとえ上手くても王
にはなれないと言っています。つまり、トレーナーという仕事
が好きで「もっと大きくなりたい」と願う由衣には「王者の才
能」がある、ということです。後任の担当者ほどの知識と技術
がなく自分に自信をもてない由衣を励ましたいという高野の
心情が読み取れます。

⑥ ポイント《文章の表現の特徴について理解できるかどうか》
この文章は終始由衣の視点から描かれています。したがって、
高野の心情や様子も、由衣が感じたものになります。会話文
や態度の描写が工夫されていることで、出来事から直接、高野
の心情を読み取ることができます。長いセリフを話す高野に対
し、由衣は主に短いことばをときに「非難しているような口調」
で返すだけです。ここからも、二人の心情が読み取れます。ま
た、はじめは「小さな声」だった高野が「しっかりとした声」
「声が熱を帯びた」と変化する描写から、気分が高揚していく
様子が読み取れます。アは、「二人の視点から」が誤り。イは、
二人の会話は後半で「熱を帯び」ていることから、「前半では緊
迫感……後半では穏やかな雰囲気」が誤り。エは、「二人の間に
厳然として存在する上下関係と情動的な距離」が誤り。二人は
お互いに「王者の才能」があることを認め合っています。

2 【出題の意図と対策】

説明的文章（論説文）の読解です。論説文とは、テーマ
について、筆者が自身の考えやその根拠を述べた文章です。ここ
では、藤原辰史の『縁食論——孤食と共食のあいだ』を題材に、
食品ロスの問題をはじめとした、「あまり」の食べものについて考
えます。論説文を読むときは、話題は何なのかを把握し、筆者の
考えや意見などを正確に読み取っていきましょう。

【解答】

- ① ㉑ 痛（めて） ㉒ 故障
- ② エ
- ③ イ
- ④ ウ
- ⑤ 食の前の平等
- ⑥ X 例 処分される農作物で作られた料理が人びとに無料
で振る舞われる（29字）
- Y ひとりひとりの心がけの問題
- Z エ

【解説】

① ㉑ 「イタめる」には、「腰を痛める」などの「痛める」と、「西
日が家具を傷める」などの「傷める」があります。

② ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》
傍線㉑のあとで「どうして、地球の成員が食べて生きていけ
るほどの食べものが生産されているのに、地球上の八億の住民
が飢えるのか」と問題提起されたのち、「それは、経済先進国な
り経済先進地域なりが……システムを作り上げず、……不完全
かつ不健全なシステムしか作ることができなかったからではな
いのか」と書かれています。つまり、剰余分を無駄なく使うシ
ステムがなく、新品のまま捨てているため、食べものがあるの
に「地球上の八億の住民が飢える」という事態が発生している
のです。したがってエが正解です。なお、ウは、剰余分を無駄
なく使うシステムがないため起こる結果です。

③ ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》
同じ文に「食べものが値段と一対一の対応をすることである」
とあります。食べものに「値段」がつくとは、「商品になる」と
いうことです。したがって、イが正解です。

④ ポイント《熟語の構成（組み立て）の知識があるかどうか》
「廃棄」は「廢」も「棄」も「すてる」という意味があり、意
味が似ている漢字を組み合わせた熟語です。組み立てが同じも
のは、ウ「競争」で、「競」も「争」も「あらそう」「きそう」
という意味があります。ア「採光」は「光を採る」で下に目的
語がくる熟語、イは「実（際）」に「施す」で、上の漢字が下の漢
字を修飾する熟語、エは接尾語がついた熟語です。

⑤ ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》
筆者が理想とする社会について、最終段落で、「親の罪悪感」
が減り、「女性の社会進出」が進む、「食の前の平等」という歴
史上ほとんど例をみない事業が行われている社会だと説明され
ています。

⑥ ポイント《文章の内容を正しくまとめられるかどうか》
Xは、「無料食堂」の5行前から直前までの内容をまとめてい
きましょう。「無料食堂」は、料理が「無料で振る舞われる」食
堂です。「作られすぎ」で、「市場に回る前に廃棄処分になる」
農作物で料理を作ります。1、処分される農作物で料理が作ら
れること、2、人びとに無料で振る舞われること、の二点が書
けていれば正解です。Yは、筆者は第三段落で、「食品ロスの問
題」は、「ひとりひとりの心がけの問題」ではなく、「受け皿シ
ステムの弱さ」だと述べています。Zは、「ひとりひとりの心が
け」に委ねず、社会制度を変えることで問題解決に近づいてい
くのは、エです。

3

【出題の意図と対策】

季語について、松尾芭蕉や高浜虚子の句などをもとに、佐藤郁良が考えを述べたものを題材にした読解問題です。俳句や和歌の古典作品は、かなづかいや表現法が現代文と違い、難解なものに感じられるかもしれませんが、解説文をしつかりと読んで設問に答えましょう。

【解答】

①(1) しずこころなく (しずこころなく)

(2) 枕詞

③ X たった十七音で一つの世界

Y 例 海女のイメージ(7字)

【解説】

①(1) ポイント《かなづかいの知識があるかどうか》

歴史のかなづかいの「ぢ・づ」は、現代かなづかいでは「じ・ず」と書きます。したがって、「しづ心なく」の「づ」を「ず」に直します。

(2) ポイント《和歌の表現技法の知識があるかどうか》

和歌などであとに続く特定の語句を修飾するために置かれる語を「枕詞」といいます。「ひさかたの」は「天」やそれに関係する「空」「光」「雲」などにかかります。枕詞は、リズムを整えたり、印象を強めたりしますが、普通は訳す意味をもちません。

② ポイント《文章の内容を正しく理解できるかどうか》

「芭蕉の句は、『桜』の本意を踏まえて鑑賞しなければなりません」とあることに着目しましょう。文章中の芭蕉の句は季語の「桜」の本意があるからこそ、句の情景が伝わるものになっているということですが、「桜」の本意については、「こうしたこととすべてが、『桜』『花』の季語としての本意です」とあり、「こうしたこと」は、これより前に書かれているそれぞれの時代や文学(和歌)における「桜」のイメージを指しています。つまり、「桜」には、「人間の生と死」のイメージ、「時に人を狂おしくさせる」というイメージ(本意)があるため、桜の花を見ながら思い出している、と詠んだだけで、人生を振り返り、人との出会いや別れを反芻しているような情景を表現できるということです。アは、「芭蕉が実際の桜をありのままに句にしたことがはつきりとわかる」、イは、『桜』は、芭蕉ほどの格の高い俳人でないとうまく使うことができない」、エは、選択肢全体が本文にない内容です。

③ ポイント《文章の内容を正しくまとめられるかどうか》

Xでは、「季語」に「本意」があるおかげで何ができているかを考えます。「季語の本意」とは、第五段落にあるように、季語が内包しているさまざまなイメージのことです。傍線⑥のある段落で、季語が「さまざまな情報を内包している」からこそ、俳句は「たった十七音で一つの世界を描ける」のだと説明されています。Yでは、高浜虚子の「海女とても陸こそよけれ桃の花」の句について、「桃の花」という季語が変わると何がかわるのかを考えます。虚子の句のあとに、「桃の花」が『海女』がまだ若い女性であることがイメージさせるとあります。もし「桃の花」を「チューリップ」に置き換えてしまうと、「幼い女の子のイメージ」になり、「菊の花」に置き換えると「ぐっと年配の女性が想像」されます。つまり、「桃の花」という季語を別の花に変えると、俳句の中の「海女」の女性像が変わるということですが、季語のまとうイメージを押さえる必要があるのは、このように季語によって俳句の意味も変わってくるためです。「イメージされる女性」「海女の年齢」など、句から思い浮かぶ女性を説明していれば正解です。

4

【出題の意図と対策】

近年「読む」能力とともに、「話す・聞く・書く」能力の育成に力が入られています。入試においては、「書く」能力を判定する記述式の問題とともに、スピーチ・発表・話し合いなど、「話す・聞く」能力を判定する会話形式の問題も頻繁に出題されています。話し合いと資料の融合問題では、話し合いのテーマや、話し合いで主張されている意見とともに、問題で用いられている資料のどこに着目して発言しているのか、資料とのつながりを正確に読み取ることが大切です。

【解答】

① 理性

② エ

③ ア・ウ・エ(完答)

④ Y 例 ア(Y・Zで完答)

Z 例 「なぜなら、」体を洗っているときにシャワーを出しっぱなしにすることが多いからだ。その無駄を防ぐ取り組みとして、シャワーは頭や体を洗い流すとき以外は止めるようにしているよ。(78字)

【解説】

① ポイント《対義語の知識があるかどうか》

「感情」とは、人や動物が物事に対して抱く気持ちのことで、対義語は、道理によって物事を判断する心の動きを表すことばの「理性」です。

② ポイント《資料を論理的に読み取ることができるかどうか》

「輝明さんの意見が論理的なものとなるために」という設問文の条件に注意しましょう。輝明さんは、【資料Ⅰ】から読み取ったことと自身の体験を結びつけ、「全体として節水に対する意識が高まっていると言えそうだね」という考えを述べているので、その考えの根拠となる内容を探します。アは、「(節水に)取り組んでいる」人の割合が最も増えているのは2018年から2019年です。イは、グラフの読み取りとしては正しいですが、節水は必要ないと考えている人がいるという内容では、その後の輝明さんの意見とはつながらないため不適当です。ウは、「節水した方がよい」とは思うがあまり取り組んでいない」人の割合は、この4年間で11%増えています。エは、「取り組んでいる」人と「節水した方がよい」とは思うがあまり取り組んでいない」人の割合の合計は4年で24%増えています。グラフの読み取りとしても正しく、輝明さんの意見の根拠としても適当です。したがって、エが正解です。

③ ポイント《発言の特徴を理解できるかどうか》

アは、千穂さんの二回の発言の内容に合います。イは、弘美さんは直前の意見に対し二回とも肯定的な意見を述べているので誤りです。ウは、一回目の大樹さんの発言内容に合っています。エは、輝明さんは二回目の発言で、弘美さんと千穂さんの意見をまとめて言いかけ、それを前提に話を進めようとしているので、合っています。オは、弘美さんの一回目の発言に対し、千穂さんは付け加える意見を述べただけで、反論はしていないため、合っていません。

④ ポイント《資料を適切に利用して、論理的な文章が書けるかどうか》

Yには、【資料Ⅲ】から一つ、自分が無駄づかいをしないように心掛けている場面を選びましょう。Zは、一文目にYで無駄づかいが生じる理由を書きます。イ「歯みがきをするとき」やウ「食器を洗うとき」は、水を出しっぱなしにして行うことが理由としてあげられるでしょう。オ「洗濯をするとき」は、少量で何度も洗濯機を回すことなどが考えられます。二文目に、その無駄を防ぐための具体的な取り組みを書きます。イ・ウは、水をこまめに止めること、オは、洗うものはなるべくまとめて少ない回数で済ませることなどがあげられます。